

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	みはらしの里		
開催日時	令和8年2月26日 13:30~15:15		
開催場所	みはらしの里1階会議室		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	5名	管理者、課長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	1名	民生児童委員
	福祉・経営に知見を有する方	1名	市内生活介護事業所管理者
	市町村担当職員	1名	市障がい福祉課職員
会議概要・議題	<p>目的：入所施設の運営状況、支援の現状と課題について地域関係者と共有し、今後の支援の質向上につなげること</p> <p>内容：1. 事業説明</p> <p style="margin-left: 20px;">①事業所・法人の概要説明</p> <p style="margin-left: 20px;">②利用者支援の現状と工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">③地域・相談支援・行政との連携</p> <p style="margin-left: 20px;">④事業所・法人の課題等</p> <p style="margin-left: 20px;">⑤その他</p> <p>2. 意見交換</p> <p>3. 施設見学</p>		
議内容・意見等	<p>① 事業所・法人の概要説明に関する質疑</p> <p>(委員からの質問・意見)</p> <p>委員より、施設の概要説明を受けたうえで、利用者本人の生活の様子や施設生活の実際について質問があった。</p> <p>また、家族の立場から施設の支援体制や対応についての意見が述べられた。</p> <p>(法人側の回答・説明)</p> <p>現在の施設生活の様子について、利用者本人の発言も交えながら説明が行われた。</p> <p>(利用者から)</p> <p>施設生活の中でマイクロバスによるドライブ活動により、あしたか公園への外出などが楽しみであることが語られた。施設では週1~2回程度、利用者をグループに分けてドライブ活動を実施しており、外出機会の確保を図っている。</p>		

また、創作活動として絵画制作を行っている利用者もあり、大きな画用紙に細密な絵を描くなどの作品が評価され、作品展等で受賞する例もあることが紹介された。

さらに、日記を書くことや散歩・運動などの活動も日常生活の楽しみとなっているとの説明があった。

食事については、魚料理、肉料理、野菜料理、味噌汁やスープなどが好まれており、カレーライス、ハヤシライス、焼きそば等も人気のあるメニューとして紹介された。

(家族委員から)

施設に対して要望や意見を伝えることもあるが、それに対して施設が真摯に対応している点について評価する意見が示された。

(法人側)

家族からの意見を改善につなげることの重要性を認識しており、今後も遠慮なく意見を寄せてほしい旨を述べた。

② 利用者支援の現状と工夫

(委員からの質問・意見)

- 利用者の高齢化や重度化が進む中で、支援の方法はどのように変化しているのか
- 個別支援計画はどのように活用されているのか

(法人側の回答・説明)

法人側より、現在の利用者支援について、利用者の高齢化や身体機能の低下、車椅子利用の増加などに伴い、従来の支援方法では対応が難しくなっているケースも増えている。

言葉で意思表示ができる利用者については、できる限り本人の意思を尊重した支援を行っている。

一方、意思表示が難しい重度の利用者については、職員が日常の様子を観察しながら気持ちを汲み取り、満足感を得られる生活となるよう支援している。

また、支援の工夫として、個別支援計画、支援手順書、地域移行に向けた計画などを作成し、支援の設計図として活用している。

個別支援計画は、利用者本人の目標、日常生活での取り組み、支援の方法を整理したものであり、職員全体で共有することでチームとして支援を行うことを目的としている。

例えば、利用者の一人は「自分の部屋をきれいに保つこと」を目標としており、掃除の取り組み状況を支援会議で確認しながら計画の見直しを行っている。

達成度に応じてシールを集める仕組みを取り入れ、モチベーションを高める工夫も行っている。

(委員から)

個別支援計画の作成・共有には多くの労力が必要であるが、職員が協力して取り組んでいる様子が伝わってくるとの意見があった。

法人側は、計画書は単なる書類ではなく、利用者の生活を支える重要な設計図であり、チームで共有しながら実践することが重要であると説明した。

③ 地域・相談支援・行政との連携

(委員からの質問・意見)

行政関係者、民生委員、地域事業所などの委員から、

- 地域における入所施設の役割
 - 短期入所（ショートステイ）の需要
 - 地域生活支援拠点との連携
- について意見が出された。

行政委員からは、三島市において入所施設が地域に存在することは、障害のある家族を持つ家庭にとって大きな安心につながるとの意見が述べられた。

(法人側の回答・説明)

法人側からは、行政との連携について次のような説明があった。

三島市と連携しながら、

- 緊急保護が必要な利用者の受け入れ
- 家族の急病等による緊急入所
- 短期入所の提供

などを実施している。

特に短期入所については、土日や祝日はほぼ満床になる状況であり、地域におけるニーズの高さがうかがえる。

また、地域生活支援拠点事業の取り組みとして、

- 将来の入所に備えたショートステイ利用
- 施設環境への事前適応
- 支援者との関係づくり

などを進めることの重要性が共有された。

(委員から)

障害のある子どもが学校を卒業した後の受け入れ先が不足している現状について指摘があり、入所施設やショートステイの役割が今後さらに重要になるとの意見が示された。

(法人側)

地域の拠点施設としての役割を果たすため、今後も行政や地域事業所と連携を深めていきたいと述べた。

④ 事業所・法人の課題

(委員からの質問・意見)

施設運営に関する課題として

- 利用者の高齢化
- 重度化への対応
- 事故防止

- 虐待防止

などについて意見が出された。

(法人側の回答・説明)

事故や虐待は決して起こしてはならないものであり、職員のチーム連携を強化しながら防止に取り組んでいく必要があると述べた。

行政委員からも、障害福祉の現場は命に関わる仕事であり、「当たり前の日常を守ること」が最も重要であるとの意見が示された。

⑤ その他

(委員からの質問・意見)

委員からは、次のような意見があった。

- 施設の普段の様子を家族がより理解できる機会を増やしてほしい
- 作品展やイベントなどの活動を地域へもっと発信してはどうか
- 他自治体の行政担当者も会議に参加することで連携が強化されるのではないかと

また、地域への理解促進のため、

- 作品展示
- 地域イベント
- 美術活動の発信

などを積極的に行うことが有効であるとの意見が出された。

(法人側の回答・説明)

法人側は、利用者の作品や活動は非常に価値の高いものであり、施設としてそれを外部に発信する役割があると考えていると述べた。

また、地域連携推進会議は年1回の開催となるが、今後も継続して開催し、

- 法人の状況報告
- 地域からの意見収集
- 支援の改善

に活用していきたいとまとめた。

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	みはらしの里		
開催日時	令和8年2月26日 15:15~16:00		
開催場所	みはらしの里		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	7名	管理者、課長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	1名	民生児童委員
	福祉・経営に知見を有する方	1名	市内生活介護事業所管理者
	市町村担当職員	1名	市障がい福祉課職員
見学時の説明・感想等	<p>委員による施設見学を実施し、職員の案内のもと施設内の設備や利用者の生活環境について説明を行った。見学は1階から2階、3階の順で実施した。</p> <p>まず1階では、作業指導室、西側談話室、居室等を案内した。談話室では、ホワイトボードを活用して利用者の日課や予定を視覚的に分かりやすく示す工夫を行っていることについて説明した。</p> <p>また、施設周辺に咲いている河津桜について話題となり、委員から「きれいに咲いていますね」といった声が聞かれた。</p> <p>続いて2階では、男性浴室から順に案内し、談話室や食堂兼活動スペースの様子を見ていただいた。談話室のホワイトボードについては1階と同様に、利用者が予定を理解しやすいよう視覚的な工夫を行っていることを説明した。</p> <p>その後3階に移動し、女性浴室から順に案内を行った。作業指導室では、他フロアと同様にホワイトボードを活用した情報共有や日課の見える化の取り組みについて説明した。</p> <p>見学の途中では委員からいくつかの質問や感想があり、職員が以下のように説明を行った。</p> <p>まず、車いす利用者の人数について質問があり、職員より「1階に2名、2階に4名、3階に9名」と説明した。</p> <p>浴室の見学時には、浴室から見える景色について委員から「とても見晴らしが良いですね」との感想があり、施設の立地環境について関心が示された。</p> <p>また、「1階には大浴場がないのはなぜか」との質問があり、職員より、入浴は男女で区分して実施しているため、1階の男性利用者は2階の浴室を利用していること、また各フロアには家庭用のユニットバスが設置されていることを説明した。</p> <p>さらに、洗濯物の管理方法について質問があり、職員より、洗濯および乾燥は地下の洗濯室で行っていること、洗濯物の仕分けは平日は就労継続支援B型事業所の利用者が作業の一環として行っていること、休日等は職員が対応していることを説明した。</p> <p>3階の見学時には、ホワイトボードに当日誕生日の利用者が掲示されていたことから、委員が利用者とともに誕生日を祝う場面も見られた。その際、誕生日のお祝いの方について質問があり、職員より、プレゼントは本人の希望や必要な物を担当職員が選</p>		

んで贈っていること、また毎朝の日課発表の際に誕生日の利用者がいれば皆でお祝いをしていることを説明した。

以上のように、施設見学を通して施設設備や日常生活の様子、支援の工夫について委員に説明を行い、施設運営に対する理解を深めていただく機会となった。